

2010年9月30日

東レ株式会社

光学用フィルムの追加増産を決定

日本で反射板、タッチパネル向けに供給能力を倍増
韓国で偏光板向け、加工品を増産 安定供給体制を確立

東レ株式会社(東京都中央区、社長:日覺昭廣、以下「東レ」)は、このたび、光学用フィルムの追加増産を決定しました。液晶ディスプレイ(LCD)の反射板、偏光板、タッチパネル用のポリエステル(PET)フィルム“ルミラー”と、表面保護用の自己粘着性ポリエチレンフィルム“トレテック”を中心に生産設備を増設し、2012年8月までに供給能力を増強します。

当社の三島工場(静岡県三島市)と岐阜工場(岐阜県安八郡神戸町)、東レフィルム加工株式会社(東レ 94.37%出資、TAF)中津川工場(岐阜県中津川市)、および韓国 Toray Advanced Materials Korea Inc.(東レ 100%出資、TAK)亀尾工場を対象にフィルム生産設備の増設・改造を実施し、2012年8月までに反射板、タッチパネル向けの供給能力を現有比倍増、偏光板および表面保護フィルムを5割増強します(現有能力は非公表)。また、韓国 TAK では、ベースフィルムに加えてフィルム加工設備も増設し、2012年1月までに加工能力を3割増強します。今回の増産対応に伴う設備投資額は約220億円を計画しています。

光学用フィルムは、主力用途であるLCDなどフラットパネルディスプレイ(FPD)関連市場の好調に加えて、今後はタッチパネルの薄型・軽量化に向けたフィルム部材の普及により、需要のさらなる拡大が見込まれています。東レは現在、FPD関連市場の旺盛な需要に対応して、光学用フィルムの最適生産体制の構築を進めています。2011年からは、LCDの世界トップメーカーを有する韓国で反射板用フィルムの現地供給体制を確立するのをはじめ、同年夏までに韓国 TAK で拡散板、プリズムシート用フィルムの供給能力を倍増する他、中国の儀化東レポリエステルフィルム有限公司(東レ 50%出資、YTP)で現地生産を開始します。今回の追加増産は、FPD関連市場の中期的な成長拡大を見据えて、引き続き光学用フィルムの安定供給を維持するために実施するものです。

東レは中期経営課題「プロジェクト IT-II(Innovation TORAY II)」における成長戦略のもと、巨大成長市場のアジアで生産拠点の強化・拡大を進めています。フィルム事業においては、高機能・高品質 PET フィルム“ルミラー”を主力とする光学用フィルムのナンバーワンメーカーとして、同分野への集中投資により成長市場の取り込みを図ることで事業のさらなる拡大を目指します。

以上